

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約37万5千人の中核市です。

本市では平成29年10月に、特別史跡である山上碑、多胡碑、金井沢碑の上野三碑が、ユネスコ「世界の記憶」に登録され、以前にも増して市内外より多くの見学者が訪れ、文化財への興味が高まっています。

本書で報告する高浜日輪遺跡2は、久留馬地区の公民館建設に伴って発見された埋蔵文化財であり、平成29年10月から30年2月にかけて発掘調査を実施したものです。

限られた範囲の調査ではありましたが、古代もこの地において、人々の生活が営まれていたという確かなあかしを示すことができました。

本報告書はこの成果について文化財調査報告書第425集としてまとめたものです。

結びに、発掘調査および報告書刊行にあたりご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げます、序といたします。

平成31年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野眞幸

例言

1. 本書は久留馬公民館（仮称）建設事業に伴い実施した「高浜日輪遺跡2」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は高崎市高浜町日輪2395番地である。
3. 発掘調査及び整理作業は高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。調査体制は次のとおりである。
教育長 飯野 真幸
教育部長 小見 幸雄
文化財保護課長 角田 真也
埋蔵文化財担当係長 神澤 久幸・矢島 浩
埋蔵文化財庶務担当 岡田 清香・加藤 志津代（平成29年度）・小暮 里江（平成30年度）
埋蔵文化財調査担当 飯島 克巳・金子 智一
4. 発掘調査及び整理期間は以下のとおりである。
発掘調査 平成29年10月23日～平成30年2月19日
整理期間 平成30年2月20日～平成31年3月31日
5. 本書の編集および執筆は飯島が行った。
6. 遺構・遺物出土状況写真の撮影は飯島、金子が行い、遺物写真撮影は飯島が行った。
7. 遺構図の作成は調査担当者の指示のもと調査補助員が行った。
8. 遺物実測図の作成は（有）毛野考古学研究所に委託した。
9. 図版等は飯島または飯島の指示のもと調査補助員が作成した。
10. 本遺跡の出土遺物、記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
11. 発掘調査に当たり、地元関係者及び所管部署にご協力をいただいた。
12. 発掘調査及び整理作業には多くの調査補助員のご尽力をいただいた。記して感謝する。

凡例

1. 本書に使用した地図は1/2500高崎市都市計画図をもとに作成した。
2. 本書中の座標値は平面直角座標Ⅹ系国家座標（世界測地系）を用い、方位は同座標北である。
3. 遺構図及び遺物図の縮尺は各図に表示した。
4. 平面図中に遺構名を表示する際は 1号住居跡：1住 2号土坑：2土 のように略表記した。
5. 土層及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会事務局及び（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を使用した。
6. 火山噴出物には次の略号を使用した。
As-B：浅間山B軽石（西暦1108年） As-C：浅間山C軽石（3世紀末～4世紀初頭）
As-YP：浅間一板鼻黄色軽石（1.3～1.4万年前）
7. 遺物観察表の数値は、以下の通り表記した。
数値のみ：完存値 （ ）：復元による推定値 []：欠損状態の残存値
8. 各住居跡平面図中の遺物に付した番号は遺物実測図の番号と一致する。●印は遺物の出土位置。
9. 遺構名称を変更したため土坑番号15～23は欠番となっている。
10. 遺構平面図中に使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

焼土・灰



粘土



目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次

表目次・写真図版目次

1. 調査に至る経緯 1
2. 遺跡の位置と周囲の歴史的環境 1
3. 調査の方法と遺跡の概要 2
4. 遺構と遺物 3

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

- | | |
|----------------------------|---|
| 第1図 高浜日輪遺跡2と周辺の遺跡 1 | 第20図 7号住居跡出土遺物 19 |
| 第2図 高浜日輪遺跡2全体図 3 | 第21図 8号住居跡平面図・断面図 20 |
| 第3図 1号住居跡平面図・断面図 4 | 第22図 8号住居跡カマド断面図 21 |
| 第4図 1号住居跡出土遺物 5 | 第23図 8号住居跡出土遺物 21 |
| 第5図 2号住居跡平面図・断面図 6 | 第24図 9号住居跡平面図・断面図 22 |
| 第6図 2号住居跡炉断面図 7 | 第25図 9号住居跡カマド断面図 23 |
| 第7図 2号住居跡出土遺物 7 | 第26図 9号住居跡出土遺物 23 |
| 第8図 3号住居跡平面図・断面図 8 | 第27図 10号住居跡平面図・断面図 24 |
| 第9図 3号住居跡カマド断面図 9 | 第28図 10号住居跡出土遺物 25 |
| 第10図 3号住居跡出土遺物 9 | 第29図 1号掘立柱建物跡平面図・断面図 26 |
| 第11図 4号住居跡平面図・断面図 10 | 第30図 1号溝平面図・断面図 27 |
| 第12図 4号住居跡断面図 11 | 第31図 1号溝出土遺物 27 |
| 第13図 4号住居跡出土遺物1 12 | 第32図 1～9号土坑平面図・断面図 28 |
| 第14図 4号住居跡出土遺物2 13 | 第33図 10～14・24～28号土坑平面図・
断面図 29 |
| 第15図 5号住居跡平面図・断面図 14 | 第34図 29～35号土坑平面図・断面図 30 |
| 第16図 5号住居跡出土遺物 15 | 第35図 10号土坑出土遺物 30 |
| 第17図 6号住居跡平面図・断面図 16 | 第36図 遺構外1遺物出土状況 31 |
| 第18図 6号住居跡出土遺物 17 | 第37図 遺構外出土遺物 31 |
| 第19図 7号住居跡平面図・断面図 18 | |

表 目 次

第1表	1号住居跡出土遺物観察表	5
第2表	2号住居跡出土遺物観察表	7
第3表	3号住居跡出土遺物観察表	9
第4表	4号住居跡出土遺物観察表	13
第5表	5号住居跡出土遺物観察表	15
第6表	6号住居跡出土遺物観察表	17
第7表	7号住居跡出土遺物観察表	19
第8表	8号住居跡出土遺物観察表	21
第9表	9号住居跡出土遺物観察表	23
第10表	10号住居跡出土遺物観察表	25
第11表	1号溝出土遺物観察表	27
第12表	10号土坑出土遺物観察表	30
第13表	遺構外出土遺物観察表	32
第14表	白玉一覧表	32

写 真 図 版 目 次

PL 1	調査前の状態・1号住居跡カマド・1号住居跡全景・2号住居跡全景・3号住居跡カマド・3号住居跡全景・4号住居跡白玉出土状況(1)・4号住居跡白玉出土状況(2)
PL 2	4号住居跡№7 坏出土状況・4号住居跡南壁遺物出土状況・4号住居跡柱穴2遺物出土状況 4号住居跡カマド・4号住居跡全景・5号住居跡カマド・5号住居跡全景・ 6号住居跡遺物出土状況(1)
PL 3	6号住居跡遺物出土状況(2)・6号住居跡南東隅川原石集中出土状況・6号住居跡カマド・ 6号住居跡全景・7号住居跡全景・8号住居跡カマド・8号住居跡全景・9号住居跡カマド
PL 4	9号住居跡全景・10号住居跡カマド遺物出土状況・10号住居跡カマド・10号住居跡全景・ 1号掘立柱建物跡全景・1号溝遺物出土状況・1号溝全景・遺構外1遺物出土状況
PL 5	出土遺物 1 1:1号住居跡 2~4:2号住居跡 5~8:3号住居跡 9~16:4号住居跡
PL 6	出土遺物 2 1、2:4号住居跡 3~5:5号住居跡 6~10:6号住居跡 11~14:7号住居跡
PL 7	出土遺物 3 1~3:8号住居跡 4、5:9号住居跡 6~9:10号住居跡 10:10号土坑 11、12:遺構外1 13:1号溝 14:1号住居跡
PL 8	出土遺物 4 1~19:4号住居跡 20:3号住居跡 21:遺構外2 22、23:遺構外3
PL 9	出土遺物 5 遺構外出土縄文土器

1. 調査に至る経緯

平成29年7月、高崎市教育委員会事務局教育部社会教育課（以下「社会教育課」）より高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課（以下「文化財保護課」）に久留馬公民館（仮称）建設事業にあたり遺跡の有無を確認するための照会があった。

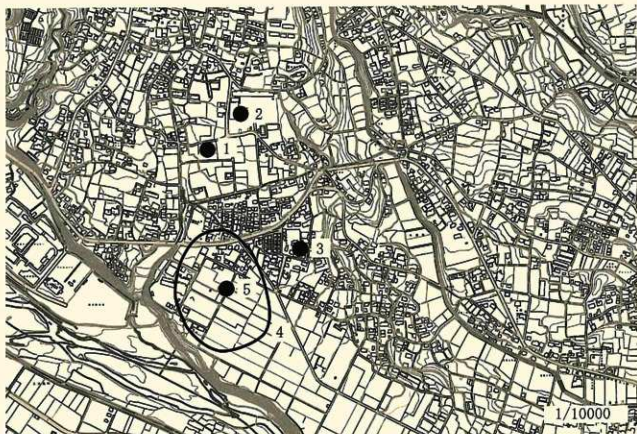
当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため平成29年8月3日試掘調査を実施した。この結果古代の遺構の存在が明らかとなり、社会教育課と文化財保護課で遺跡保存の方策を協議したが、事業計画の変更は困難であるとのことから記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は平成29年10月23日から実施した。

2. 遺跡の位置と周囲の歴史的環境

本遺跡が立地するのは約5万年前の榛名山の火山活動によって発生した室火砕流によって形成された十字字台地の末端付近、緩やかに南へ下る緩傾斜面上である。調査地の西は現在埋め立てられて平坦地になっているが、かつては南北方向の谷が入っており、現在も県道の南側では谷地形が観察できる。東は久留馬小学校の東で黒沢川の支流の谷がはいりこんでいる。南は現在県道によって分断されているが、緩傾斜面が鳥川によって形成された崖まで続いている。

本台地周辺は榛名地域の中でも遺跡が集中するところで、南には60基以上の古墳が存在した本郷奥原古墳群、瓦や瓦塔が発見され古代寺院の存在が推定される本郷奥原遺跡が存在する。さらに南東方向に下れば後漢代の内行花文鏡が出土した本郷大塚古墳を含む場・七曲古墳群、稲荷森古墳群などの古墳群が展開しており、稲荷森遺跡、道場遺跡、蔵屋敷遺跡などでは弥生時代後期から平安時代にかけての集落が確認されている。さらに県指定史跡であるしども塚古墳の東では6世紀代と考えられる一辺が82~110mの



1 高浜日輪遺跡 2 高浜日輪遺跡 3 本郷奥原遺跡 4 本郷奥原古墳群 5 奥原53号墳
第1図 高浜日輪遺跡2と周辺の遺跡

方形にめぐる溝が確認されており、豪族居館の存在が予想されている。このように各時代にわたる遺跡が極めて稠密に分布している地域である。

今回の調査区の周囲は平成6年に榛名町教育委員会によって道路部分の調査が行われており（日輪遺跡）、7世紀から8世紀にかけての集落が確認されている。また、縄文時代前期から後期、弥生時代後期の遺物も発見されている。

今回の調査区の北東100mほどの久留馬小学校敷地内では、平成25年に発掘調査が行われており（高浜日輪遺跡）、ここでは縄文時代前期、古墳時代から平安時代にかけての住居跡が確認されている。

3. 調査の方法と遺跡の概要

発掘調査を実施したのは、公民館本体建設範囲、浄化槽設置部、擁壁設置部、及び造成のための切土により掘削が遺構面に及ぶ恐れのある範囲で、約1630㎡である。

塵土置き場を確保するため調査区を南北に分け、最初に南半分の調査を行い、調査終了後反転して北半分の調査を実施した。

表土掘削は重機により行った。掘削は調査区の西側から開始したが、調査区西部では現地表面下20cmほどでローム漸移層に達したため、この面を遺構確認面とした。

掘削が東へ移るに従い浅間山B軽石（As-B）を含む表土層が厚くなるとともに部分的にAs-B純層が検出された。このためAs-B層上面が確認できた高さを目安に一旦掘削を止め遺構の有無を確認したが、遺構が確認できなかったためさらに掘削を行った。

As-B層の下は浅間山C軽石（As-C）を含む黒褐色の土であったが、この層の範囲内では遺構は検出できず、最終的に遺構が確認できたのはこのAs-Cを含む黒褐色土をほぼ削り取った段階であった。

調査区西部でローム漸移層が極めて浅かったこと、調査区東部の遺構確認面までの厚い土層堆積状態において、As-C層が確認できなかったことや、As-C層下の黒色強粘性のいわゆる「クロボク」土が一部で薄く確認できるにとどまったことなどから、As-B降下以前に、おそらくは自然営為により土が動いていたのではないかと思われる。

表土掘削の後人力により遺構確認作業を行い、遺構の先後関係を確認後、精査に移った。

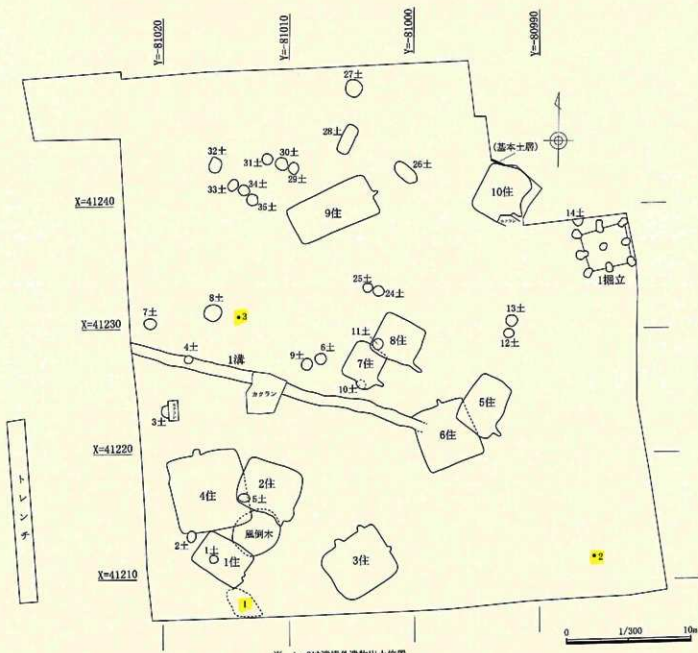
平面測量は、世界測地系による国家座標の座標軸方向に4箇所基準杭を設置し、これをもとに光波測距儀と平板を併用して行った。

写真撮影は、カラーリバーサル、モノクロネガを35mmフィルムで行い、併せて約2400万画素23.5×15.6mmフォーマットのデジタルカメラでJPEG画像を記録した。

検出された遺構は竪穴住居跡10基、掘立柱建物跡1基、溝1条、土坑26基であった。

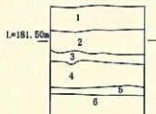
遺物は遺構出土のもののほか、遺構外1としたところでは須恵器壺が2個体分、遺構外2では須恵器長頸壺が、遺構外3では石皿と凹石が出土している。このほか調査区全体にわたって疎らに縄文土器破片が出土している。

4. 遺構と遺物



※ 1~31は遺構外遺物出土位置

基本土層



基本土層

- 1 黒褐色土 現耕作土。As-A・As-Bを含む。
- 2 黒灰色土 多量のAs-Aと若干のAs-Cを含む。
- 3 As-B層 純粋であるが、一次堆積ではない。
- 4 黒色土 As-Cを含む粘性土。
- 5 黒色土 強粘性土。
- 6 暗褐色土 ロームの漸移層。強粘性。遺構確認面。

0 1/40 1m

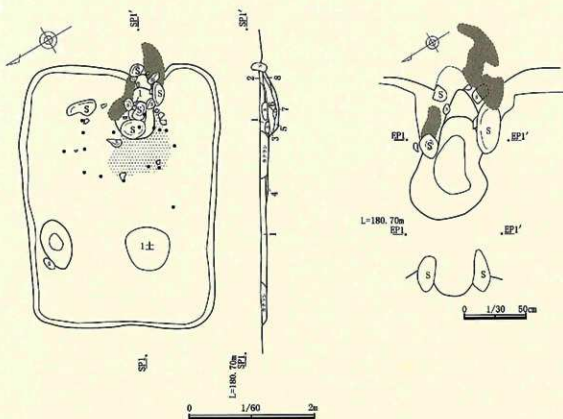
第2図 高浜日輪遺跡2全体図

竪穴住居跡

1号住居跡

1号住居跡は現地表面から20cmほど下、現耕作土直下で検出された。このため残存状態は悪く、残存壁高は15cmほどであった。柱穴は検出されなかった。遺物はカマド前面付近に土器小破片が少量出土したのみであった。磨製石斧は耕作等による混入であろう。

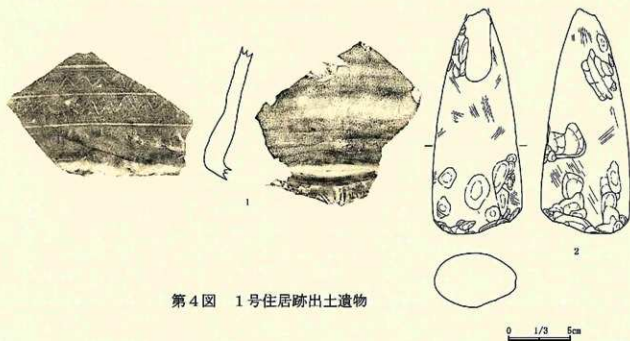
規模	4.20m×3.10m	長軸方位	N-120°-E	深さ	0.15m	重複関係	—
その他	柱穴は確認できない。						



SP1-SP1'

- 1 黒色土 As-C及びAs-Bを含む。しまりやや弱い。粘性有り。
- 2 褐色土 粘性強い。しまりやや弱い。カマド崩落土。
- 3 黒褐色土 焼土粒を多量に含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 4 黒褐色土 強くしまる。粘性きわめて強い。この層の上面が硬面。
- 5 黒褐色土 粘性弱く、しまり弱い。サラサラしている。
- 6 赤褐色土 カマド崩落粘土主体で焼土粒を含む。粘性強い。しまり弱い。
- 7 明赤褐色土 火熱を受けた粘土。粘性なし。しまり弱くサラサラしている。
- 8 黒色土 層下のAs-Cを含む。粘性有り。粒子細かい。しまりやや弱い。

第3図 1号住居跡平面図・断面図



第4図 1号住居跡出土遺物

第1表 1号住居跡出土遺物観察表

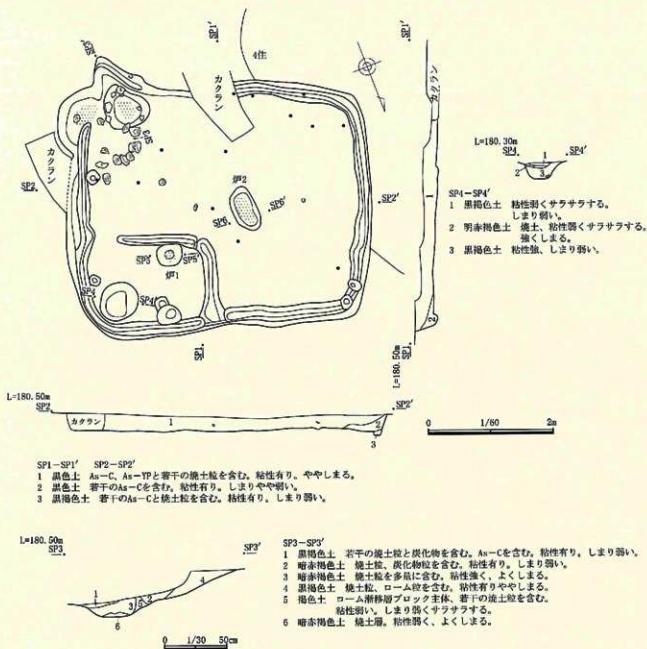
図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第4図-1 PL5-1	須恵器	甕	口頸部1/6	①石英、赤褐色粒 ②外:灰色 内:黄灰色 ③沈線間に衝描波状文	— — —	口頸部ロクロ成形 胴部タタキ成形	
第4図-2 PL7-14	石器	磨製石斧			残長17.9 幅 7.1 厚 4.3	刃部両辺に敲打痕と刺離痕 (燧石に転用か)	緑色岩類重さ785.14g

2号住居跡

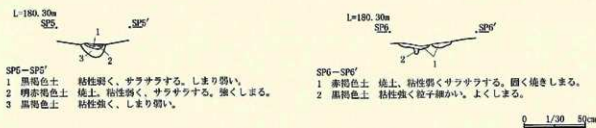
遺構確認時点での住居跡の上面には As-B 純層がレンズ状に堆積しており、As-B 降下時には埋没しきっておらず窪地として残っていたと考えられる。残存壁高は20cm程度であるが、As-B の堆積状態より、ももとの掘りこみも浅かったのではないかと考えられる。4号住居跡を切って構築されている。

柱穴は確認できなかったが、径約60cm、深さ約30cmの土坑が北東隅に、設けられていた。また、床面に2箇所、炉と思われる焼土のたまった窪みが検出された。遺物は少なく小破片のみである。

規模	4.90m×3.95m	長軸方位	N-112°-E	深さ	0.20m	重複関係	4号住居跡を切る。
その他	柱穴は確認できない。						



第5図 2号住居跡平面図・断面図



第6図 2号住居跡炉断面図



第7図 2号住居跡出土遺物

第2表 2号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調 (釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	形状・調整等	備考
第7図-1 PL5-2	須恵器	壺	口頭部1/8	①石英 ②外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色 ③比線上に柳濠波状文	— — —	口頭部ロクロ成形	
第7図-2 PL5-3	須恵器	甕	口縁部1/8	①石英 ②外：黄灰色 内：オリーブ黒色 ③柳濠波状文	— — —	口縁部ロクロ成形	内面全面と外面一部に自然釉
第7図-3 PL5-4	鉄器	刀子			— — —		重さ11.74g

3号住居跡

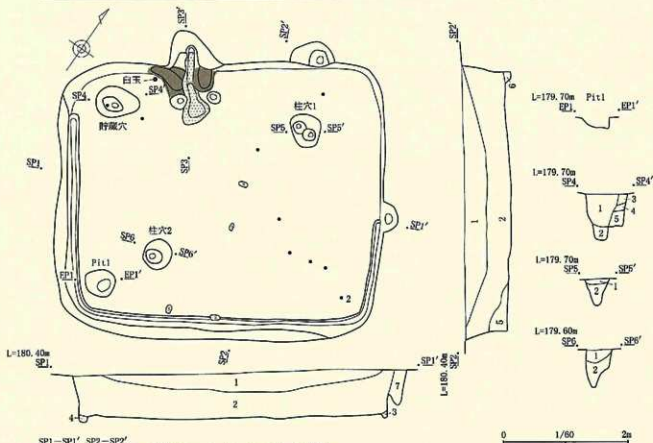
残存壁高70cmを測る。覆土の1層と2層は含まれるロームブロックの大ききで分層したがほぼ同質な層であり、一時に埋没したような様相を呈する。柱穴は対角上に2箇所のみ確認できた。

カマドの残存状態は悪く、カマドを構成していたと考えられる粘土は多量に検出されたがカマド本体の形状は明確に把握できないような状態であった。また、袖部分に2箇所窪みが検出されており、袖石を抜き取った痕跡と考えられる。

出土遺物は極めて少ない。床面直上から滑石製の白玉が1点発見された。

(3・4号住居跡の白玉一覧表は、P.32に掲載。)

規模	5.20m×4.50m	長軸方位	N-57°-E	深さ	0.70m	重複関係	—
その他	柱穴が確認できたのは、2箇所のみ。						



SP1-SP1' SP2-SP2'

- 黒色土 多量のAs-Cと若干のロームブロックを含む。粘性有り。しまりやや弱い。
- 黒褐色土 As-C、大径のロームブロック、As-YPを含む。粘性有り。しまりやや弱い。
- 黒褐色土 As-YPを多量に含む。粘性強く、しまり弱い。
- 黒褐色土 多量のAs-YPと若干のロームブロックを含む。粘性強く、しまり弱い。
- 黒色土 As-Cを含む。砂子細かく粘性強い。よくしまる。
- 黒褐色土 As-YPを多量に含む。粘性強く、しまり弱い。
- 黒褐色土 As-C及び若干のロームブロックを含む。粘性有り。よくしまる。

SP4-SP4'

- 黒褐色土 As-Cと若干のAs-YPを含む。粘性有り。しまりやや弱い。
- 黒褐色土 As-YPを多量に含む。粘性強く、しまり弱い。
- 黒褐色土 若干のAs-YPとロームブロックを含む。粘性強く、よくしまる。
- 黒褐色土 As-YPをやや多く含む。粘性強く、しまり弱い。
- 褐色土 As-YPを多量に含む。粘性強く、しまり弱い。

SP5-SP5'

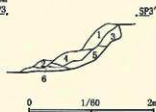
- 黒褐色土 若干のAs-CとAs-YP、ロームブロックを含む。粘性強く、よくしまる。
- 黒褐色土 多量のAs-YPを含む。粘性強く、しまり弱い。

SP6-SP6'

- 黒褐色土 若干のロームブロック、As-YPを含む。粘性強く、よくしまる。
- 灰褐色土 As-YP、ロームブロックを多量に含む。粘性強く、しまりやや弱い。

第8図 3号住居跡平面図・断面図

L=180.50m
SP3



SP3-SP3'

- 1 明赤褐色土 若干の黄土粒を含む。粘性強く、よくしまる。
- 2 明赤褐色土 粘土主体で粘性強く、よくしまる。カマド崩落層のブロックと考えられる。
- 3 暗褐色土 若干の黄土粒を含む。粘性強く、よくしまる。
- 4 明褐色土 若干の黄土ブロックを含む粘土主体層。粘性強く、よくしまる。
- 5 褐色土 若干の黄土粒を含む。粘性強く、よくしまる。
- 6 明褐色土 黄土粒を含む。粘性強く、よくしまる。

第9図 3号住居跡カマド断面図



第10図 3号住居跡出土遺物

第3表 3号住居跡出土遺物観察表

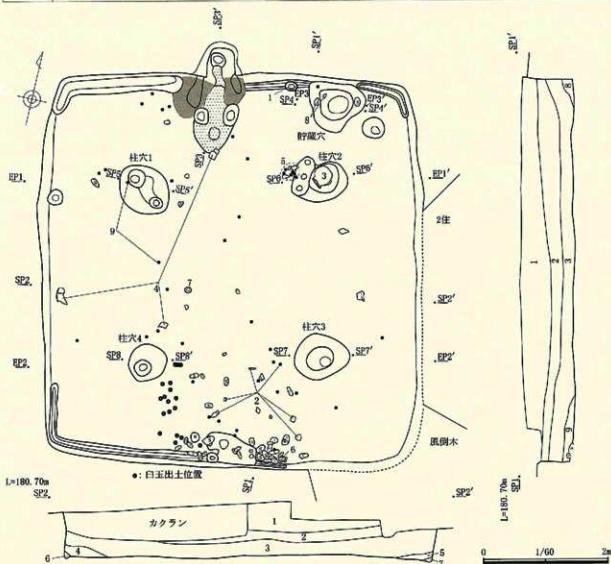
図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調 (粒実) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第10図-1 PL5-5	土師器	坏	口縁部～ 底部1/6	①炭母、赤褐色粒 ②褐色	(12.2) [3.9] —	外：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ナデ	
第10図-2 PL5-6	土師器	坏	口縁部～ 底部1/3	①石英、白色粒 ②にぶい褐色	(11.6) [3.6] —	外：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ナデ	
第10図-3 PL5-7	土師器	坏	口縁部～ 底部1/8	①炭母、赤褐色粒 ②にぶい赤褐色	(12.1) [2.6] —	外：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部～底 部ナデ	
第10図-4 PL5-8	土師器	坏	口縁部～ 体部1/4	①石英、雲母、片岩 ②褐色	(15.4) [5.3] —	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ ケズリ後にユビオサエ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	

4号住居跡

本住居跡の覆土1～3層は、含まれる粒子に若干の差異はあるもののほぼ同質の層であり、一時に埋設したと考えられる堆積状況であった。カマドは多量の粘土が検出されたが残存状態は不良で、袖石の抜き取り痕と思われる窪みが2箇所検出されている。総じて3号住居跡とよく似た埋没状態を示す。

遺物は、南壁際中央付近から柱穴4付近にかけて床面直上から滑石製白玉が19点発見されたほか、床面中央西寄りで正立状態の完形の坏が1点、南壁際から多量の川原石とともに完形の坏が1点、柱穴2からは底部のみ欠した壺が1点など特徴ある出土状況を示すものが見られた。

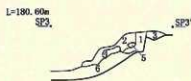
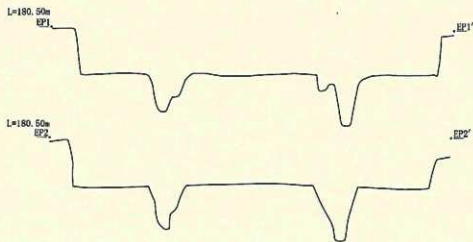
規模	6.25m×6.00m	長軸方位	N-15°-W	深さ	0.80m	重複関係	2号住居跡に切られる。
その他							



SP1-SP1' SP2-SP2'

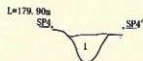
- 1 黒褐色土 As-C, As-YPを含む。粘性有り。よくしまる。
- 2 黒褐色土 As-C, As-YP及び若干の焼土粒と小径のロームブロックを含む。粘性有り。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土 多量のAs-CとAs-YP、ロームブロック、若干の焼土位を含む粘性有り。しまりやや弱い。
- 4 黒色土 As-C, As-YP、ロームブロックを含む。粘性有り。よくしまる。
- 5 黒褐色土 多量のロームブロックを含む。粘性強く、よくしまる。
- 6 黒褐色土 多量のローム粒を含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 7 黒褐色土 多量のローム粒を含む。粘性強く、よくしまる。
- 8 黒色土 As-C、ローム粒、ロームブロックを含む。粘性強く、よくしまる。
- 9 黒色土 As-C、ローム粒、ロームブロックを含む。粘性強く、しまりやや弱い。

第11図 4号住居跡平面図・断面図



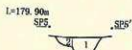
SP3-SP3'

- 1 暗赤褐色土 わずかに焼土粒を含む。粘性弱く、サラサラする。しまり弱い。
- 2 暗赤褐色土 若干の焼土粒を含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 As-Cと若干の焼土を含む。粘性有り。しまりやや弱い。
- 4 明褐色土 粘性強く、よくしまる。カマド崩落粘土。
- 5 明赤褐色土 粘性有り。よくしまる。崩れたカマド崩落粘土。
- 6 褐色土 焼土粒を多量に含む。粘性強く、よくしまる。崩落粘土主体。



SP4-SP4'

- 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒とAs-Cを含む。粘性強く、しまり弱い。



SP6-SP6'

- 1 黒色土 ロームブロック、ローム粒、As-Cを含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 As-YPを多く含む。粘性強く、しまりやや弱い。



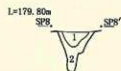
SP6-SP6'

- 1 黒色土 As-C、As-YPを含む。粘性強く、よくしまる。
- 2 黒褐色土 As-Cと若干のローム粒を含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 多量のAs-YP、ローム粒と若干のAs-Cを含む。粘性強く、しまり弱い。



SP7-SP7'

- 1 黒色土 ロームブロック、ローム粒と若干のAs-Cを含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 2 褐色土 As-YPを主体とする。しまり弱い。

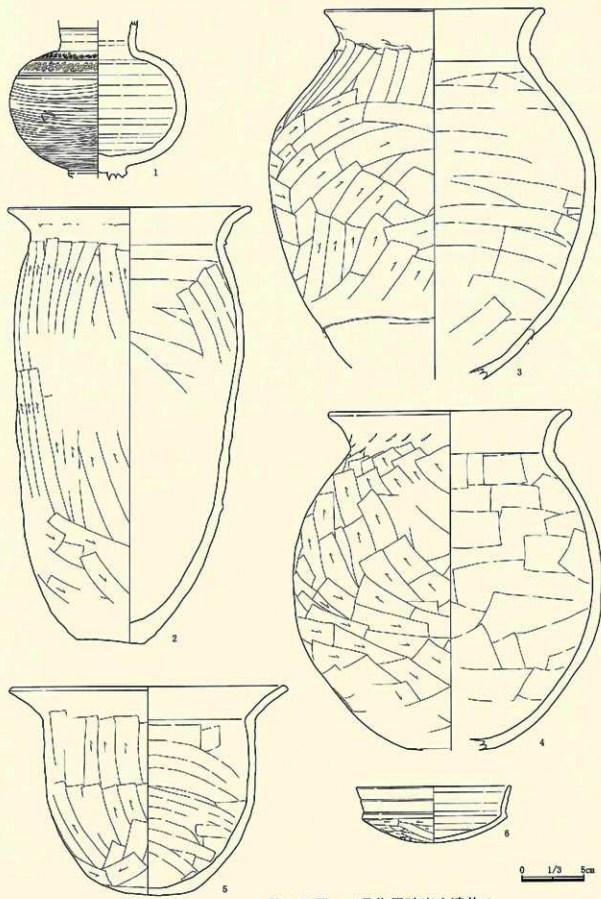


SP8-SP8'

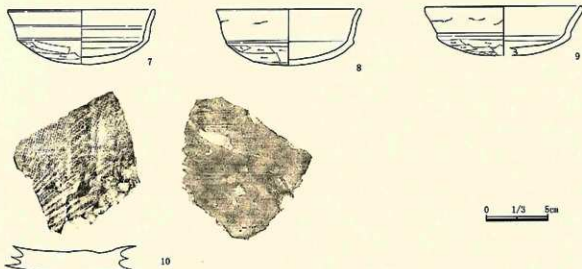
- 1 黒色土 ローム粒と若干のAs-Cを含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 As-YPを多く含む。粘性強く、しまり弱い。

0 1/60 2m

第12図 4号住居跡断面図



第13圖 4号住居跡出土遺物1



第14図 4号住居跡出土遺物2

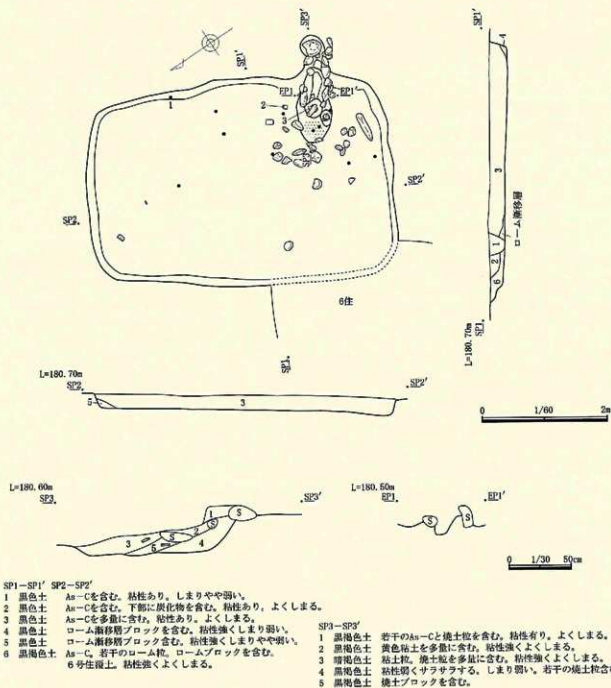
第4表 4号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①粘土 ②色調(釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	形状・調整等	備考
第13図-1 PL5-15	須恵器	台付蓋	頸部~胴部1/2	①白色粒、黒色噴出物 ②黄灰色 ③頸部~胴部肩に沈線と櫛歯刺突文	— [12.5] —	ロクロ成形 外:胴部下半カキメ	
第13図-2 PL5-9	土師器	甕	口縁部~底部3/4	①石英、チャート、雲母、片岩 ②外:にぶい橙色 内:橙色	19.2 34.7 5.5	外:口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラケズリ 内:口縁部ヨコナゲ、胴部~底部ヘラナゲ	底部木炭痕、外面胴部下半に白色物質付着
第13図-3 PL5-1	土師器	甕	口縁部~胴部	①石英、雲母、チャート、片岩 ②橙色	17.5 [29.4] —	外:口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラケズリ 内:口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラナゲ	胴部外面に煤付着、胴部下位器面剥落柱穴2から出土
第13図-4 PL6-2	土師器	甕	口縁部~底部1/2	①石英、雲母、白色粒 ②橙色	19.2 [27.0] —	外:口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラケズリ 内:口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラナゲ	
第13図-5 PL5-10	土師器	鉢	口縁部~底部1/4	①石英、チャート、雲母、片岩 ②灰褐色	22.0 16.5 7.3	外:口縁部ヨコナゲ、胴部~底部ヘラケズリ 内:口縁部ヨコナゲ、胴部~底部ヘラナゲ	
第13図-6 PL5-11	土師器	坏	完形	①雲母、赤褐色粒 ②橙色	12.2 4.5 —	外:口縁部ヨコナゲ、体部~底部ヘラケズリ 内:口縁部~体部ヨコナゲ、底部ナゲ	
第14図-7 PL5-12	土師器	坏	完形	①雲母、チャート、赤褐色粒 ②橙色	11.6 4.4 —	外:口縁部ヨコナゲ、体部~底部ヘラケズリ 内:口縁部~体部ヨコナゲ、底部ナゲ	床面直上
第14図-8 PL5-13	土師器	坏	口縁部~底部3/4	①雲母、赤褐色粒 ②橙色	11.5 4.5 —	外:口縁部ヨコナゲ、体部~底部ヘラケズリ 内:口縁部ヨコナゲ、体部~底部ナゲ	
第14図-9 PL5-14	土師器	坏	口縁部~底部1/3	①雲母、チャート ②橙色	(12.6) [3.9] —	外:口縁部ヨコナゲ、体部~底部ヘラケズリ 内:口縁部~体部ヨコナゲ、底部ナゲ	
第14図-10 PL5-16	瓦	平瓦		①石英、白色粒 ②暗灰黄色~灰黄色	— — —	凸面:ヘラナゲ 凹面:布目	

5号住居跡

残存壁高約20cm。床面はあまり縮まっておらず、柱穴は検出できなかった。6号住居跡を切って構築される。プラン確認時は切り合いが不明であったため、6号住居跡と重複する部分の壁は断面と床面状態からの推定である。

規模	4.90m×3.30m	長軸方位	N-33°-E	深さ	0.20m	重複関係	6号住居跡を切る。
その他	柱穴は確認できない。						



第15図 5号住居跡平面図・断面図



第16図 5号住居跡出土遺物

第5表 5号住居跡出土遺物観察表

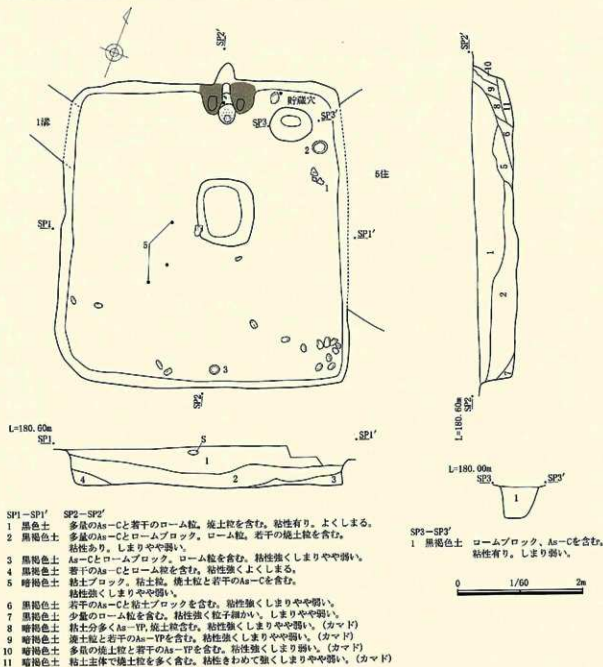
図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調 (繪画) ③文様等	口縁 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第16図-1 PL6-3	カワラケ	皿	口縁部～ 底部1/4	①雲母、赤褐色粒 ②外：にぶい褐色 内：褐色	(9.4) 1.8 (5.9)	ロクロ成形 底部回転未切り	
第16図-2 PL6-4	カワラケ	皿	口縁部～ 底部2/3	①雲母、赤褐色粒 ②外：赤褐色 内：暗赤褐色	(9.6) 1.9 (6.3)	ロクロ成形 底部回転未切り	
第16図-3 PL6-5	軟質陶器	土釜	口縁部～ 胴部上位 1/6	①石英、雲母、赤褐色粒 ②明赤褐色	— — —	外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ 内：口縁 部ヨコナデ、胴部ナデ	

6号住居跡

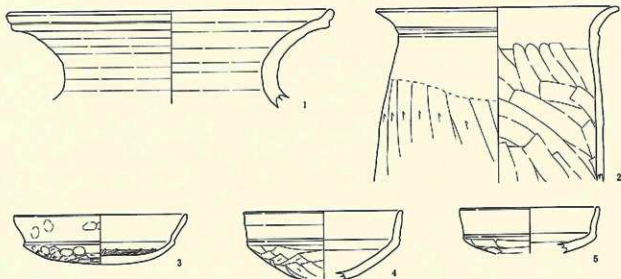
この住居跡の覆土も3号、4号住居跡と同様に一時に埋没したような堆積状態であった。残存壁高は約60cm。柱穴は確認できなかった。床面中央付近に浅いくぼみが認められる。

住居跡南東の隅に川原石が多数検出され、南壁際中央付近から倒立状態の坏が床面から出土しているなど、4号住居跡と似た埋没状態を示す。

規模	4.85m×4.60m	長軸方位	N-21°-W	深さ	0.60m	重複関係	5号住居跡・1号溝に切られる。
その他	柱穴は確認できない。						



第17図 6号住居跡平面図・断面図



第18図 6号住居跡出土遺物

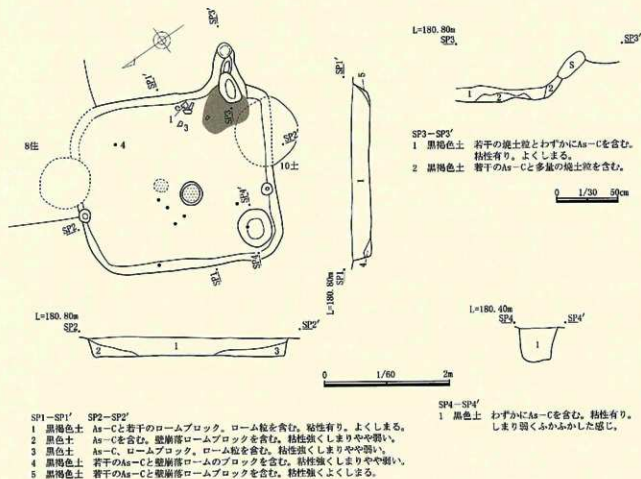
第6表 6号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①粘土 ②色調(釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第18図-1 PL6-9	須恵器	甕	口縁部1/6	①チャート、白色粒 ②黄灰色	(26.0) [7.4] —	コク口成形	
第18図-2 PL6-10	土師器	甕	口縁部～ 胴部上半	①石英、チャート、白色粒 ②にぶい赤褐色	19.4 [13.9] —	外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、胴部 上位ナデ・中位ヘラナデ	外面口縁部～胴部上位 粘土付着、胴部中位煤 付着
第18図-3 PL6-6	土師器	坏	口縁部～ 底部1/4欠 損	①石英、雲母、チャート ②明赤褐色	13.7 4.0 —	外：口縁部ヨコナデ・ユビ オサエ、体部～底部ヘラケ ズリ・ユビオサエ 内：口 縁部～体部ヨコナデ、底部 ナデ後に放射状ヘラミガキ	
第18図-4 PL6-7	土師器	坏	口縁部～ 底部1/2	①雲母、赤褐色粒 ②褐色	(12.7) [5.1] —	外：口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ、 底部ナデ	
第18図-5 PL6-8	土師器	坏	口縁部～ 底部1/3	①雲母、赤褐色粒 ②褐色	(11.2) [3.6] —	外：口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナデ、 底部ナデ	

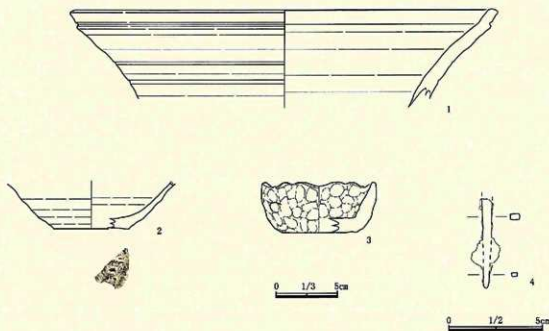
7号住居跡

残存壁高約30cm。柱穴は確認できなかった。南西隅に径約60cm、深さ約55cmの土坑を設ける。床面中央付近に2箇所炉状の焼土の堆積があった。

規模	3.20m×2.80m	長軸方位	N-27°-E	深さ	0.30m	重複関係	8号住居跡に切られる。
その他	柱穴は確認できない。						



第19図 7号住居跡平面図・断面図



第20図 7号住居跡出土遺物

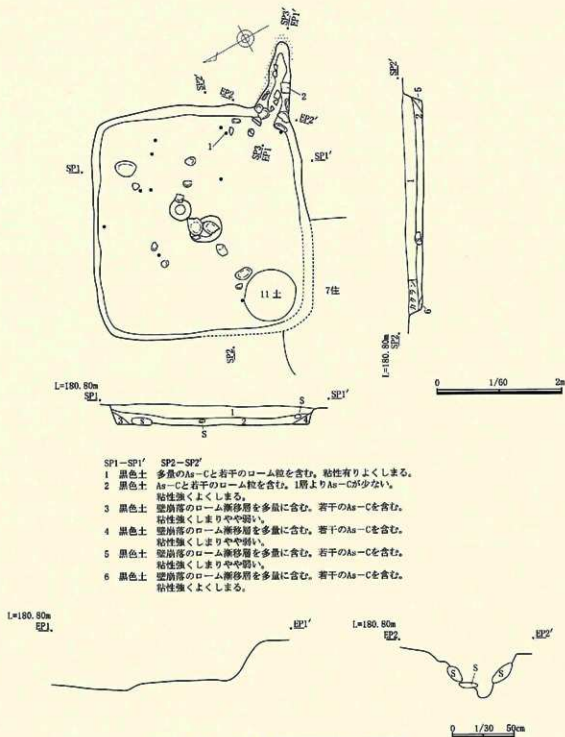
第7表 7号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調 (釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第20図-1 PL6-13	須恵器	鉢	口頭部1/8	①チャート、白色粒 ②外：黒褐色 内：黄灰色	(34.0) [7.8] —	ロクロ成形 口頭部外面に沈線	内面自然釉
第20図-2 PL6-12	須恵器	坏	体部～底 部1/6	①白色粒 ②灰色	— [3.8] (6.0)	ロクロ成形 底部回転糸切り	
第20図-3 PL6-11	土師器	手捏ね	口縁部～ 底部1/3	①霞母、チャート、白色 粒、赤褐色粒 ②外：にぶい赤褐色 内：明赤褐色	(9.0) 4.0 (6.0)	外：口縁部～底部ユビオサ エ 内：口縁部～体部ユビオサ エ、底部ナゲ	
第20図-4 PL6-14	鉄製品	釘			残長4.8 幅0.3～ 0.5 厚0.2～ 0.3	断面長方形	

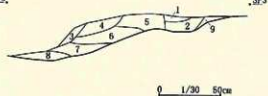
8号住居跡

7号住居跡を切る。残存壁高約30cm。柱穴は確認できなかった。南東コーナーにカマドを設ける。床面及び床面を覆う第2層中に多数の石が検出された。

規模	3.75m×3.50m	長軸方位	N-114°-E	深さ	0.30m	重複関係	7号住居跡を切る。
その他	柱穴は確認できない。						



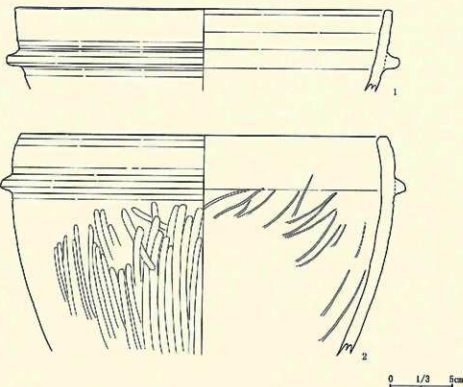
L-180, 80m
SP3



SP3-SP3'

- 1 褐色土 焼土粒と若干のAs-Cを含む。粘性有りしまりやや弱い。
- 2 明褐色土 焼土ブロック主体。若干のAs-Cを含む。粘性弱くサツサツする。よくしまる。
- 3 黒色土 若干のAs-C、焼土粒を含む。粘性強くしまりやや弱い。
- 4 明褐色土 粘土主体。若干のAs-C、焼土粒を含む。粘性強くしまりやや弱い。
- 5 褐色土 焼土粒、焼土ブロックと若干のAs-Cを含む。粘性強くよしまる。
- 6 褐色土 焼土粒、焼土ブロックと若干のAs-Cを含む。粘性強くしまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックと若干の炭化物粒、As-Cを含む。粘性強くしまり弱い。
- 8 黒褐色土 焼土粒と若干の炭化物粒を含む。灰を多く含み、粘性弱くしまり弱い。
- 9 暗褐色土 焼土粒を含む。粘性有り。しまりやや弱い。

第22図 8号住居跡カマド断面図



第23図 8号住居跡出土遺物

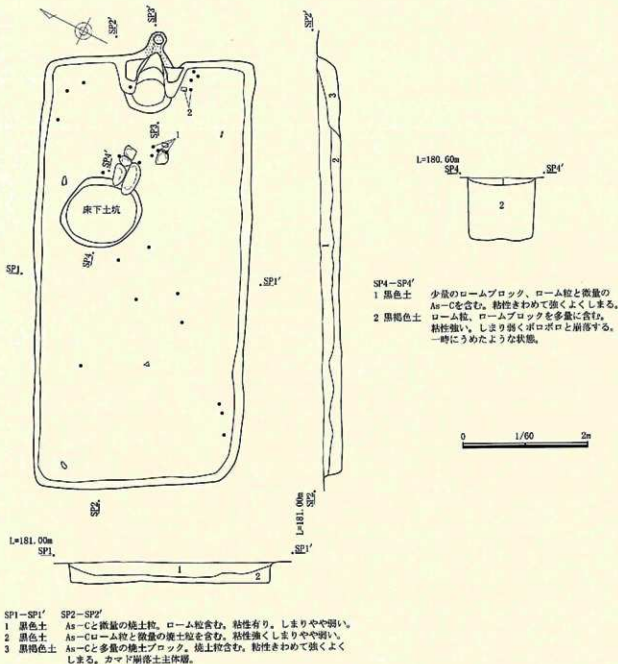
第8表 8号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(釉薬) ③文様等	口縁器 高さ 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第23図-1 PL7-2	須恵器	羽釜	口縁部1/8	①石英、雲母、角閃石 ②褐色	(30.0) [6.4] -	外：口縁部ヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ	
第23図-2 PL7-1	須恵器	羽釜	口縁部～ 胴部1/5	①石英、チャート、角閃石 ②にぶい赤褐色	(29.0) [17.4] -	外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ヘラミガキ 内：口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ後ヘラミガキ	口縁部外面に粘土付着

9号住居跡

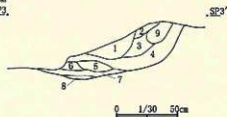
残存壁高約40cm。柱穴は確認できなかった。覆土中の遺物は少なく、3号、4号住居跡と同様に一時に埋没したと思われる堆積状態であった。カマド壁体の残存状態は不良であった。

規模	6.90m×3.45m	長軸方位	N-66°-E	深さ	0.40m	重複関係	—
その他	柱穴は確認できない。貼床下に土坑。						



第24図 9号住居跡平面図・断面図

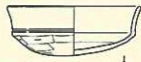
L-181.00m
SP3



SP3-SP3'

- 1 褐色土 粘土主体，雑土を含む，強粘性，しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 若干のM-Cと粘土を含む，粘性有りしまりやや弱い。
- 3 暗赤褐色土 粘土主体で熱を受けた明赤褐色粘土を多量に含む，粘性強くしまりやや弱い。
- 4 暗褐色土 粘土を多く含む強粘性，しまり弱い。
- 5 赤褐色土 焼土主体層，粘性弱くしまり弱い。
- 6 暗褐色土 焼土を多く含む，強粘性，しまり弱い。
- 7 暗褐色土 焼土を多く含む，強粘性，しまり弱い。
- 8 黒色土 灰を多く含む，粒子細かく粘性有り。
- 9 明赤褐色土 煙道の天井，加熱によりボロボロする，粘性なし，よくしまる。

第25図 9号住居跡カマド断面図



0 1/3 5cm

第26図 9号住居跡出土遺物

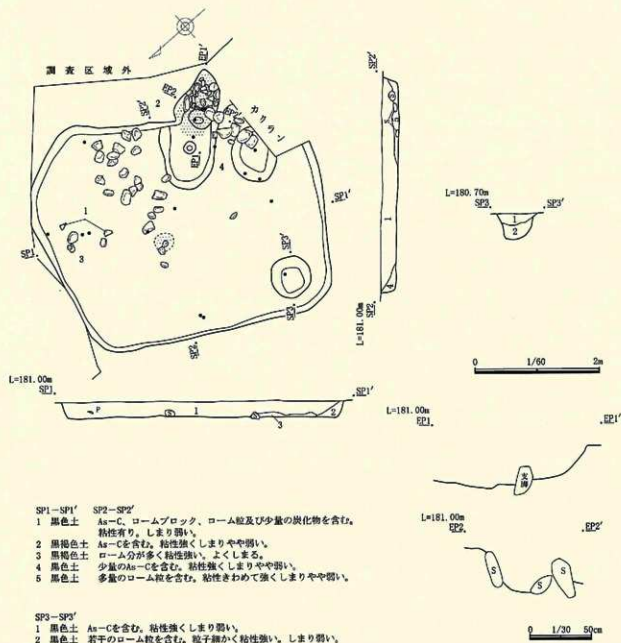
第9表 9号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(軸筋) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第26図-1 PL7-4	土師器	杯	口縁部～ 底部1/2	①雲母、赤褐色粒 ②橙色	(10.6) 3.9 —	外：口縁部ヨコナゲ、体部 ～底部ヘラケズリ 内：口縁部～体部ヨコナゲ、 底部ナゲ	
第26図-2 PL7-5	土師器	杯	口縁部～ 底部1/3	①雲母 ②橙色	(10.8) [3.4] —	外：口縁部ヨコナゲ、体部 ～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナゲ、体部 ～底部ナゲ	

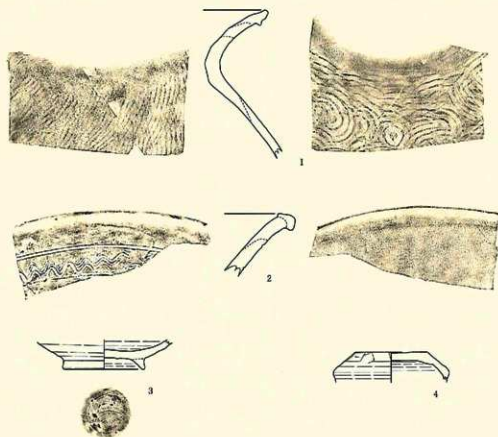
10号住居跡

残存壁高約25cm。柱穴は確認できなかった。南西隅に径約65cm、深さ約40cmの土坑を設ける。住居跡中央付近に炉状の焼土の堆積が認められた。カマドの北側には多量の石が検出された。

規模	4.65m×3.55m	長軸方位	N-37°-E	深さ	0.25m	重複関係	—
その他	柱穴は確認できない。						



第27図 10号住居跡平面図・断面図



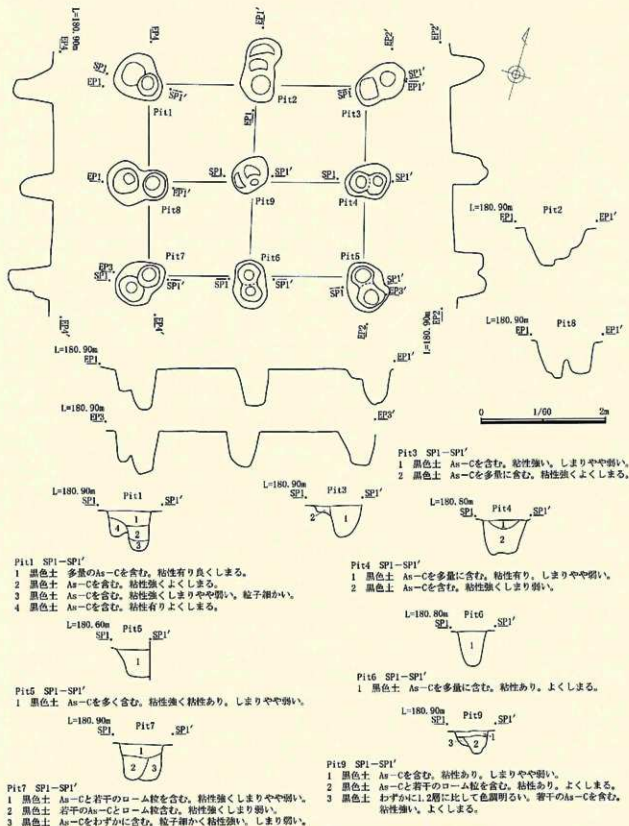
第28図 10号住居跡出土遺物

第10表 10号住居跡出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(輪藻) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	形状・調整等	備考
第28図-1 PL7-8	須恵器	甕	口縁部～ 胴部肩1/6	①石英、白色粒 ②外：黄灰色 内：灰色	— — —	口縁部ロクロ成形 外：胴部タタキ痕 内：胴部当て具痕	
第28図-2 PL7-9	須恵器	甕	口縁部1/6	①石英 ②黄灰色 ③口縁部沈澱と櫛齒波状文	— — —	ロクロ成形	
第28図-3 PL7-6	須恵器	碗	体部～底 部	①石英、白色粒、黒色噴出 物 ②外：灰褐色 内：灰黄褐色	— [2.4] 6.5	ロクロ成形 底部回転未切り	内面に重ね焼き痕
第28図-4 PL7-7	須恵器	蓋	天井部～ 体部	①石英 ②外：黄灰色 内：灰黄色	天井部 5.7 [2.4]	ロクロ成形 外：天井部～体部上端手持 ちヘラケズリ 内：天井部ナデ	

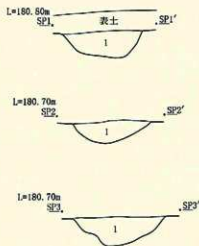
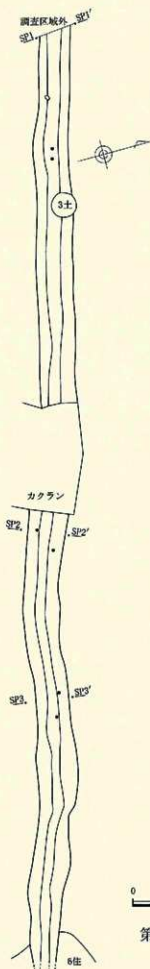
1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡の規模は、南北3.1m、東西3.5mである。各ピットは中央のものを除いて重複しているが、外側のものは柱を抜き取る際の抜き取り穴と思われる。主軸方向はN-15°-Wである。



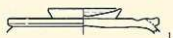
第29図 1号掘立柱建物跡平面図・断面図

1号溝



SP1-SP1' ~ SP3-SP3'

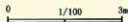
1 黒褐色土 As-Cを含む。粘性有り。よくしまる。



第31図 1号溝出土遺物

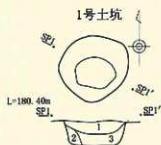
第11表 1号溝出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(釉薬) ③文様等
第30図-1 Pl.7-13	須臾器	蓋	天井部1/3 欠損	①白色粒 ②外:黄灰色 内:灰白色
1) 口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等		備考	
天井径 12.0 [2.1]	ロクロ成形 外:天井部回転ヘラケズリ後 ロクロナデ 内:天井部ナデ			



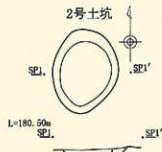
第30図 1号溝平面図・断面図

土坑



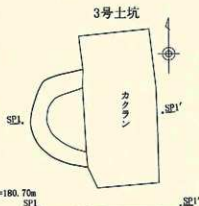
SP1-SP1'

- 1 黒褐色土 As-C, As-Bを含む。粘性有り。粒子粗い。
- 2 暗褐色土 粘性強く、よくしまる。ローム層(壁)の崩壊上。
- 3 黒褐色土 As-Cを含む。粘性強。しまりやや弱い。粒子細かい。



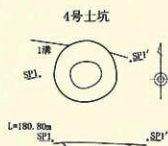
SP1-SP1'

- 1 黒褐色土 As-Cと若干の焼土を含む。粘性有り。しまりやや弱い。L=180.70m



SP1-SP1'

- 1 黒褐色土 As-Cを含む。粘性有り。よくしまる。



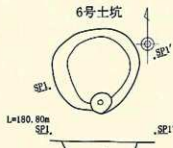
SP1-SP1'

- 1 黒褐色土 As-Cを含む。粘性有り。よくしまる。



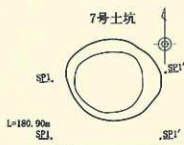
SP1-SP1'

- 1 黒色土 As-C粒、As-YP粒を含む。粘性強く、しまり弱い。



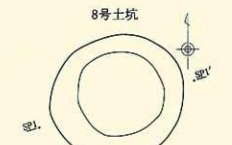
SP1-SP1'

- 1 黒色土 As-Cと若干の焼土粒を含む。粘性有り。よくしまる。



SP1-SP1'

- 1 黒色土 As-C, ローム粒を含む。粘性あり。よくしまる。



SP1-SP1'

- 1 黒色土 As-C粒及び炭化物と若干の焼土粒を含む。粘性有り。よくしまる。

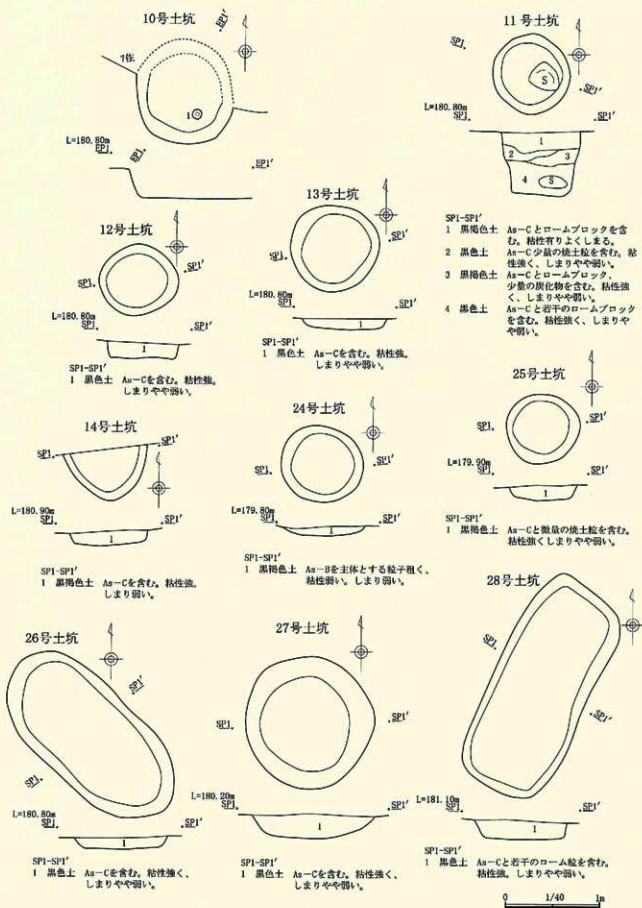


SP1-SP1'

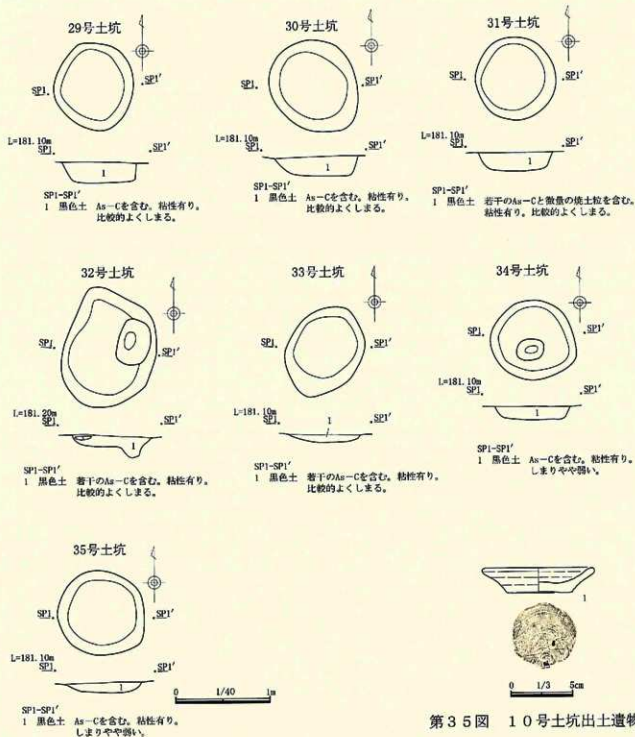
- 1 黒色土 As-Cと若干のAs-YPを含む。粘性あり。よくしまる。



第32図 1~9号土坑平面図・断面図



第33図 10～14・24～28号土坑平面図・断面図



第34図 29～35号土坑平面図・断面図

第35図 10号土坑出土遺物

第12表 10号土坑出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(軸葉) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	整形・調整等	備考
第35図-1 PL7-10	カワラケ	甕	壳形	①雲母、角閃石、白色粒 ②外：にぶい棕色 内：にぶい黄棕色	4.9 2.0 5.3	ロクロ成形 底部回転承切り	

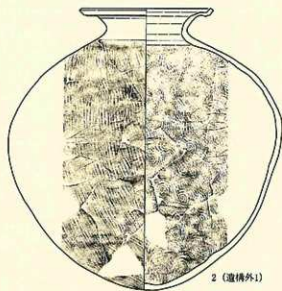
遺構外



1 (遺構外1)

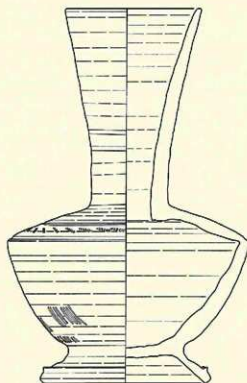
0 1/6 10cm

第36図 遺構外1遺物出土状況



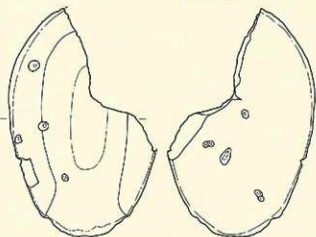
2 (遺構外1)

0 1/6 10cm



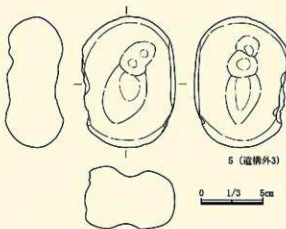
3 (遺構外2)

0 1/3 5cm



4 (遺構外3)

0 1/6 10cm



5 (遺構外3)

0 1/3 5cm

第37図 遺構外出土遺物

第13表 遺構外出土遺物観察表

図番号 写真図版	種類	器種	部位	①胎土 ②色調(釉薬) ③文様等	口径 器高 底径 (cm)	形状・調整等	備考
第37図-1 PL7-12	須志器	甕	口縁部～ 胴部3/4	①チャート、白色粒 ②黄灰色	(20.2) —	口縁部ロクロ成形 外：胴部タタキ痕 内：胴部当て具痕	
第37図-2 PL7-11	須志器	甕	口縁部～ 底部3/4	①石英、チャート、白色 粒、赤褐色粒 ②褐色	(21.1) —	口縁部ロクロ成形 外：胴部タタキ痕 内：胴部当て具痕	
第37図-3 PL8-21	須志器	長頸壺	口縁部～ 底部3/4	①白色粒 ②黄灰色 ③胴部～胴部肩に沈澱と刺 突文	10.8 29.7 13.4	ロクロ成形(胴部下半はタ タキ成形後にロクロ整形)	外面に自然釉
第37図-4 PL8-22	石器	石皿	3/4		残長36.2 残幅23.2 厚 7.3	皿部は大きく窪み、台部は 平滑で、敲打痕ある	安山岩。 重さ6.1kg
第37図-5 PL8-23	石器	叩石	完形		長10.4 幅 7.4 厚 5.0	表裏の凹穴のあとに表裏と 右側面が摩耗、左側面は強い 敲打	安山岩。 重さ519.23g

第14表 白玉一覧表

遺構	PL.8 No.	径 (mm)	厚み (mm)	特徴
4号住居	1	14.2	8.7	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑。
#	2	14.0	5.6	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	3	12.7	8.1	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	4	13.4	8.0	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	5	13.0	7.2	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑。
#	6	13.4	8.0	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	7	12.6	7.8	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑。
#	8	12.4	8.4	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	9	13.1	5.4	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	10	13.6	5.8	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	11	14.2	8.6	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑擦過痕有り。
#	12	14.0	6.9	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	13	13.6	7.2	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	14	13.4	5.6	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	15	13.7	8.6	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	16	14.6	10.5	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	17	14.1	9.1	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。
#	18	13.5	8.6	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑。
#	19	13.2	5.5	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。両面平滑。
3号住居	20	12.4	4.9	側面に縦方向の粗い研磨痕有り。片面平滑擦過痕有り。

材質は全て滑石である。穿孔については、孔に食い違いが無いこと、一部のものに片側のみに孔の縁に鐘鉢状の広がり認められることから片側からの穿孔と考えられる。